

平成25年 第1回定例会

一般質問 秋成 靖議員

平成25年 2月28日

▶質問

皆様、おはようございます。

まず初めに、昨夜、安倍総理が大田区へ訪問されました。下町ボブスレーに関連しての“ちいさな企業”成長本部として町工場の皆さんとの意見交換とのことでしたが、大田区内のものづくり中小企業への総理の大きな期待を力強く感じられた訪問だったと思います。本日は、日々の区民相談で寄せられた区民の皆様のお声の中から、通告に従い質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

一昨年、東日本大震災以降、区内鉄道駅や空港の利用者を見たときに、大田区への来客者について、この先どうなっていくのかと誰もが懸念していたことと思います。そのような中、観光課、そして観光協会のこの2年にわたる様々な努力や取り組みが、今、徐々に結果となってあらわれてきていると感じております。

個人的な所感ですが、昨年のNHK連続テレビ小説「梅ちゃん先生」の放送終了後、週末に蒲田を訪れるたびに、少し前と比べて圧倒的に増えた人の多さに驚いております。最近では、雑誌「東京ウォーカー」の東京の温泉を特集した記事に大田区の温泉が4分の1を占める割合で掲載されたり、直近では、ここ蒲田を紹介する「蒲田ウォーカー」が発刊されたことなども、これまでの様々な取り組みの結果の一つと感じます。所管委員会と関連する内容にも若干触れますが、本日は大田の観光について区内の観光資源に関連しながら、いくつか質問をさせていただきます。

まず初めに、区内の伝統的な行事を多くの区民にいかに関心を持っていただくかについてです。例えば、お会式について、池上地域でお生まれになり、その地域で長らく住まわれてきた方においては、その環境の中で育ってこられたため、誰に教わるでもなく、行事の持つ背景や歴史などが自然となじみ深いものとなっていることと思います。

お会式を一つの例で挙げましたが、羽田の水神祭や大森東の水止舞など、区内の各地域に様々な伝統行事が存在します。区内の小中学校では、児童生徒たちに地域の伝統行事を

社会科、生活科、総合の学習の中で教えていただいております。しかし、その内容が教科書に載っていないため、地域による差や、同じ学校でも担任の先生により取り上げる内容の差もあるようです。歴史のある伝統行事に触れることがない子どもたち、そのまま成人となった大人のために、そして、区外から転入されてきた方々のためにも、平成25年度に導入が予定されているデジタルサイネージの放映で、区内の伝統行事、地域行事を紹介して流すこともご検討いただけないでしょうか。

4年前に作成した大田区観光振興プランの中で、大田区観光の意義の第1番目として「愛着と誇りのもてる舞台（ふるさと）づくり」と掲げられている中に、「地域住民自らが、地域への愛着と誇りを持っていることこそが、訪れても楽しい地域」とありました。区民みずからが大田の歴史や伝統を知り、区内外へ大田を自慢したくなるようなちょっとした語り口を一つでも持てることが地域への愛着と誇りにつながると思います。

続いて、観光資源の活用についてお伺いします。どのように紹介できるかを考えるところですが、区として、区内の著名人のお墓などの史跡について、観光資源として広く周知する手だてはないでしょうか。大田区内の著名人のお墓といえば、洗足池には勝海舟が眠り、池上には江戸時代の絵師、狩野探幽のお墓が存在し、山王には領主の厳しい年貢に対する直訴を計画し斬罪となった村役人、義民六人衆のお墓などがあります。NHK大河ドラマ「八重の桜」の中で、現在の山本八重が後に運命的な出会いを果たすのが、同志社大学の創立者、新島襄です。その新島襄を尊敬し、新島の最後をみとったのが明治・大正・昭和で活躍した時のジャーナリスト、徳富蘇峰でありました。その徳富が、熊本の同胞であった「人斬り彦齋」として有名な武士、河上彦齋のお墓を品川から池上に移したとされていますが、このような歴史も、これからホットな話題となると思います。

これら歴史的遺産の周辺は多くの区民が集う憩いの場でもあり、これからの季節、大変にすばらしい桜並木が訪れた人たちを楽しませてくれることと思います。観光資源にもなると思われるこれらの著名人のお墓につきましては、大田区観光協会のホームページ「ふれあい、たくさん。大田ナビ」に詳しく紹介されております。このページはそのほかにも情報が満載で、学ぶ・食べる・泊まるなどの目的からでも大変に探しやすい内容です。

これだけのすばらしい内容ですが、現在でも区内には、インターネットを見ることができない環境の方は大変に多くいらっしゃいます。今年の新年会で、「大田区の観光地に行きたいんだけど、案内なんてあるのかしら」とご質問いただいたので、観光協会でもパンフレットをいただき持参したところ、「こんなにいいものがあるのね」と大変に喜んでいただくことができました。「ふれあい、たくさん。大田ナビ」の内容の中には既に印刷

物となっているものもありますが、今述べてきた区内のお墓など史跡についての情報につきましても、区民の皆様が手にとって持って歩けるような形で徐々に配布物としての準備をお願いしたいと思います。ご検討のほどよろしくお願いいたします。

続いて、大田区商店街連合会が実施されているおおたの逸品では、各店舗の特色を生かした様々な商品が認定されています。昨年秋に開催された、おおた商い観光展においても、それらの商品が販売され、大変に好評でした。これらの商品をPRし、区内外の方に知っていただくことで、さらに大田区をアピールできるものと思います。さらには、新商品の開発なども推奨することで新たな大田区の魅力をつくり出すこともでき、観光資源の発掘にもつながるのではないのでしょうか。おおたの逸品の効果についてどのようにお考えかお伺いします。

続いて観光資源という観点からの質問です。本年2月におおた工業フェアが開催されました。当日会場には高校生も数多く見られ、熱心に真剣なまなざしで企業の方からの説明に耳を傾けていました。当企業ではこれを製造していますと展示されていたものの中にも、私自身購入したいと思うものがありましたし、お話を伺う中で、毎日目の前を通っているあの企業の皆さんが、こんなにすてきでこれだけすばらしい製品をつくられているんだという新鮮な感動を覚えました。以前に職員の方からお伺いした話では、大田のものづくりは、図面があればどんなものでもつくることのできる。しかし、それは図面があつての話であるとのことでした。深い意味も含まれた内容かと思ったのですが、そのときは正直、少し寂しかったと感じたことを覚えています。

しかし、今回の平成25年度予算では、新製品・新技術開発支援事業の中に、開発コラボ助成が新規事業として予算化されました。企業とデザイナーをマッチングし、社会的課題解決のための製品開発や、売れる製品開発に取り組む経費の助成とのことでした。売れる製品とは、観光資源としても非常に有効であると考えます。本会議後予算化され、この事業が進み、売れるヒット製品ができた際には、近い将来的に売れる製品の展示や販売をする発信拠点について計画はありますでしょうか。それが本庁舎であっても、鉄道の主要駅や空港でもよいと思います。ぜひ前向きなご検討をお願いします。所見をお聞かせください。

続いて、部活動について質問します。

1年生議員の中で、バスケットといえば海老澤議員、サッカーといえば馬橋議員、空手といえば玉川議員というように、この議場の議員、理事者の皆さんにも、何らかのスポーツや趣味をやつてこれ、これといえば誰というように、長年続けられてきた趣味や特技が、その人をあらわすイメージとなるということは本当にすてきなことだと感じます。

今、学校の部活動は全国的に閉鎖的、体罰という側面からのイメージで取り上げられることが多いのですが、本日は少し視点を変えました。現在、自信を失ったと言われている子どもたちが、部活動を通して本来持っている能力や多様性を引き出すことができ、そして、自己評価を高めることができるという部活動が持つ潜在的な力に期待を込めて、区立中学校の部活動への行政と地域のかかわりについて、ご意見やご要望をいただいた事例から質問をさせていただきます。

文部科学省の学習指導要領には、生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として教育課程との関連が図れるように留意すること。その際、地域や学校の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うようにすることと記載されています。

まず初めに、部活動校外指導員についてお伺いします。この校外指導員は、各中学校において学校長が選任、委嘱した校外指導員が、部活動の実技指導を行うとした事業と伺います。指導員数は180を超え、種目、内容も運動系、文化系と多種多様に及んでいます。この予算はこの数年間、横ばいの状況と伺います。しかし、学校の現場からは、指導者の方に指導いただける時間をもっと増やしてほしいとお声をお聞きます。

そこでお伺いします。現場から毎年わたって予算増の要望に対して応えていくことはできないのでしょうか。

指導いただいている方への報償費を払い切れていないという現状のもと、各学校が苦慮されている状況はないでしょうか。現状をお示してください。

続いて、平成25年度予算案の概要の中にも掲載されていますが、大田区では、学校のこんなことがしたい、手伝ってほしいという希望と、地域の方の経験や知識を生かし子どもたちの役に立ちたいという思いを橋渡しする学校支援地域本部（スクールサポートおおた）が平成21年度から立ち上がり、おおた教育振興プランの計画どおり5か年をかけ、平成25年度内に全校実施が予定されています。その支援活動の中にも部活動が含まれていますが、実際の中学校の現場での支援状況はいかがでしょうか。

この学校支援地域本部（スクールサポートおおた）ですが、本年1月末の段階では小中学校合わせて50校の設置と、これまで4年弱の間で6割に満たない状況です。そして、これから1年と少しで、残りの4割強の学校が設置に向け準備されていくと思われま。この進状況と今後の予定について、教育委員会としての所感をお示してください。

そして、スタートから間もなく4年となりますが、学校において学校支援コーディネー

ターの皆さんが、それぞれの現場において孤軍奮闘されているような状況はないでしょうか。もしそのような状況であれば、区として何らかの打開策を図る必要があります。各種団体の特徴や協働のポイントを学ぶことで、新たな人材を地域につなぎ、地域の団体間の協働を生み出すつなぎ役、コーディネーターを養成するとした、地域振興部が所管する区民活動コーディネーター養成講座との連携も考えられないでしょうか。

さらには、地域力応援基金助成事業の中にも、部活動支援の経験を経て25年度よりステップアップ助成事業を開始し、小学校への出前授業をされる団体もあると伺いました。このように、これまで大田区が進めてきた区民協働の観点からの部活動への支援についても、これからの展開の可能性についてお考えをお示しください。

続いて、文化系の部活動、ブラスバンドを通して備品について質問します。ブラスバンドで使用する楽器は教育委員会計画物品のため、年に1度、学務課が各学校に調査をし、必要と認めた学校に楽器購入の予算が再配当される。各学校は再配当された予算に基づき楽器を購入し備品として管理する。また、楽器を修理する場合は、各学校に配当している修繕費の範囲内で修理はできるが、楽器修理用だけの予算は確保されていないと伺っています。

私は数年前、娘が入部していた中学校の吹奏楽部へコンクール前に何度か伺いました。楽器の状況といえば、タンバリンに張られた皮は剥がれ、カラオケボックスで使うようなひどい状態でした。鉄琴をたたくバチをマレットといますが、楽器と接触するかたいゴムの部分は虫が食ったように穴があき、その状態での演奏は、ボーリングでいえばぼこぼこになって真っすぐに走らないようなボールを投げているような感覚でした。そのような中で生徒さんたちは、何も気にすることなく、それが当たり前という表情で、けなげに練習を重ねていました。

ところで、私たち日本のほぼ裏側のベネズエラには、幼児から青少年までの方が無料で音楽を学び、オーケストラの活動に参加するエル・システマがあります。もともとは貧困にあえいでいる子どもたちを音楽の教育を通して育てたい、麻薬や犯罪から救うための手だてとしたいとの社会福祉も視野に入れた音楽活動だったようです。

子どもたちが使用する楽器は無料で貸与され、レッスン料も無料です。各地域での講師のもと指導がされています。スタートから30余年を経た現在、エル・システマから選抜されたオーケストラを、ラトルやアバドといった世界的に有名なコンダクターが指揮を振り、このエル・システマ出身である若き青年指揮者ドゥダメルが、ベルリンフィルやウィーンフィルを指揮するという偉業は、全世界がベネズエラを注目するという結果へとつながっています。この制度は全て政府の助成から成り立っており、ベネズエラ政権が歴代変わる

中においても、その助成は削減されることなく増資を続けているようです。

ここで私がエル・システムを取り上げたのは、活動の形態は違いますが、学校の勉強と音楽活動を両立させていこうという姿勢や、子どもたちの人間性を高めていこうという思いは、日本の部活動と共通している部分が非常に多いと感じたからです。

話を戻しますが、私たちの大田区で、現在の厳しい環境のもとで練習に励んでいる子どもたちがいることについては、地方議員として声を大にして訴えなければなりません。しかし、現在の限られた区の予算のもとで何か工夫ができないかと考えたときに、区内中学校のブラバンへコーチとして入られている方からの言葉にヒントがありました。それは、こちらの学校で必要としている楽器が、片や別の学校では使われずに眠ったままになっていることがあるということでした。

このことから、各学校で備品を管理するという形に加え、大田区全体で備品を照会するようなシステムで、使われていない備品、眠っている楽器を有効活用する手だてが考えられないでしょうか。所管する行政、教育委員会の方のちょっとした工夫により、一人の生徒さんが、楽器と出会えたことをきっかけとして、将来の日本を代表し世界へ羽ばたく音楽家へ成長される可能性も秘めていると思います。所見をお伺いします。

私ごとですが、実は私も吹奏楽部に所属しておりました。昨年の10月からOBバンドの練習に参加し、年が明けた1月にコンサートに出演しました。実に、27年ぶりの本格的な演奏でした。そのバンドにはプロになった方もおり、レベルが高い中で、正直なところ私は足を引っ張ってしまったのですが、演奏会の後、たったこの1回のコンサート出演で、この先何があってもしばらく頑張っていけるなという充足感を得ることができました。

今回は部活動でも、主に吹奏楽に特化して質問をさせていただきましたが、子どもたちの将来への力となるものは何か、子どもたちの心身の支えとなっていくものは何か。それがスポーツであっても文化的なものであっても、希望に満ちあふれた中学生が部活動という機会を通して出会えた自身が打ち込めるものが、児童生徒たち一人ひとりの自己肯定感を高めることができ、学習意欲の向上、責任感、連帯感の向上など、生きていくためのエネルギーにも変えていけるものになると考えます。そのために私たち議会、行政、そして地域のかかわり方がどうあるべきか、環境整備を含めたサポートのための組織のあり方までも改めて見直すときではないでしょうか。

以上、観光について、そして部活動についての一般質問を終わります。

<回答>

▶ 津村経営管理部長

私からは、デジタルサイネージによる区内の伝統行事や地域行事の紹介に関するご質問にお答えをさせていただきます。

区はこれまでも、区報やホームページ、おた写真ニュースなどにより、区内各地域の様々な催しの紹介を行ってまいりました。また区では、区民の皆様の多様なライフスタイルや価値観に合わせ効果的に情報をお伝えするため、様々なツールを用いて広報機能の充実を図っております。平成24年10月からは、即時性、拡散性においてすぐれた情報伝達手段であるツイッターを導入し、区内の催事情報や歴史・史跡情報などを随時発信しております。平成25年度に新たな情報発信ツールの一つとして導入予定のデジタルサイネージにつきましても、区内の様々な伝統行事や地域行事などを放映するように検討してまいりたいと考えております。私からは以上でございます。

▶ 伊東産業経済部長

観光関係のご質問にお答えいたします。

まず、区内のお墓や史跡を観光資源として周知できないかのご質問でございますが、大田区には多摩川や東京湾などの自然、銭湯や商店街などの生活、また世界に誇るものづくりなど、人々を引きつける魅力的な観光資源が豊富でございます。そして、ご指摘の著名人のお墓、あるいは史跡も重要な観光資源でございます。ただし、お墓に関しましては、歴史的な人物のものといたしましても、それぞれのお墓などの管理者との調整が必要だと思っております。管理者の方のご了解が得られた上で紹介をしていくような配慮の必要があるのではないかと考えてございます。具体的な紹介の仕方などは今後検討してまいりたいと存じます。今後もホームページや観光マップ、パンフレット等を通じてこれらの魅力をアピール、広報するなど周知に取り組んでまいります。

次に、お墓や史跡などについての配布物についてのご質問でございますが、ご指摘のように、現在も「ふれあい、たくさん。大田ナビ」、「いろは・な・大田区」をはじめ、季刊で発行しております「大田の観光」、「大田の魅力再発見ウォーク」といった観光マップやガイドブックなどを作成して配布してございます。史跡に関しましては、現在も可能な限りマップやパンフレット等に掲載をしております。お墓に関しましては、それぞれの

お寺などとの調整が必要であると考えておりました、今後、調整がついたものにつきましては、マップなどの配布物への記載などについても、あるいは紹介の仕方を含めて検討してまいりたいと考えてございます。

次に、おおたの逸品の効果についてのご質問でございますが、目玉商品をつくることで来店される効果、商店街に人を呼び込む効果、そのような取り組みをしているというPR効果、個店が新たな商品開発に取り組もうとする意欲を高める効果などが考えられます。製造品、販売商店、無形サービスなど、全ての店で逸品を創作するという事は可能であり、その商品やサービスによって店を活性化させることができてまいります。店ごとに逸品づくりに励むことで、商店街の中にいくつもの逸品を生み出し、商店街全体の活性化につなげていくことも可能になってまいります。このような観点から大田区商店街連合会でも、各店舗に商品開発を積極的に行っていただけるよう促しているところでございます。区といたしましても、この事業を主催しております大田区商店街連合会の取り組みやPRについて、大田区の魅力発信や商店街振興に資するものであるということで引き続き支援をしてまいります。

次に、開発コラボ助成等により開発された製品の展示や販売をする発信拠点についてのご質問でございますが、来年度予算案でご審議いただいております開発コラボ助成は、インダストリアルデザイナーと企業が共同で主に消費者向けの製品開発を行い、区が両者に支援を行おうというものでございます。また、開発された後に製品をPRしたり、流通ルートに乗せることなども重要な課題と考えております。完成品の発信拠点としては、羽田空港内の大田区観光情報コーナーや、ご審議いただいております京急品川駅観光情報コーナーなどでの展示も考えられると思います。部品加工が中心であり、消費者向けの最終製品が少ない大田区の工業でございますが、新たなものづくりの力を区内外に発信していくとともに、今後、開発された製品を観光資源として活用していくことについても研究をしてまいりたいと考えてございます。私からは以上でございます。

▶ 金子教育総務部長

私からは、学校が相互に使っていない備品や楽器を融通し合い、有効活用できるシステムがつかれないかのご質問にお答えいたします。

現在では、校務事務システムにより、全ての教職員がコンピューターネットワークによる電子メールや掲示板を利用して連絡をとり合うことができる環境が整備されております。

今後は、このシステムの活用によりまして、学校間の備品等の受け渡しを活発化させて有効活用を推し進めることで、音楽をはじめとした子どもたちの可能性を引き出す教育環境の充実に努めてまいりたいと考えております。

▶ 赤松教育地域力・スポーツ推進担当部長

私からは、まず中学校部活動を指導する校外指導員につきましてお答えさせていただきます。

区は、中学校部活動校外指導員要綱に基づきまして、全ての中学校で校外指導員を選任、委嘱してございます。現在、バスケットボール、バレーボール、バドミントンなどの運動系、それから吹奏楽、華道、茶道などの文化系、合わせまして30を超える種目において指導をしていただいているところでございます。報償費につきましては、今後も限られた予算をできる限り公平に各校に割り当て、部活動の充実が図れるように努力してまいります。続いて、学校支援地域本部の部活動支援に関するご質問でございます。学校支援地域本部は、学校支援コーディネーターが学校と地域の橋渡しとなりまして、学校の求めに応じて学校図書館の運営支援や学習サポートなど、その学校の特性や実情に合わせて活動を行っているところでございます。議員ご質問の部活動支援につきましても、いくつかの学校で行ってございます。例えば、ある中学校では卓球部の支援といたしまして、地域で卓球の経験のある方が卓球部の練習中に事故がないような見守りと、また指導を行いながら、顧問の先生の手助けをしているというものでございます。

また、区民協働の観点からの部活動支援についてのご質問でございますが、大田区には各地域に貴重な経験を有する人材が多くいらっしゃいます。そうしたことから部活動の支援につきましても、地域力応援基金助成事業等の活用を含めて、地域の人的資源を広く活用させていただきながら、事業を進めてまいりたいと考えてございます。

次に、学校支援地域本部の設置の進状況に関するご質問でございますが、この設置につきましては、おおた教育振興プランに基づきまして、平成21年度から25年度まで計画的に設置をしているところでございまして、現在その計画を上回る学校で学校支援地域本部の設置がなされているところでございます。平成25年度は、計画どおり全校実施に向けて事業を進めてまいります。

また、学校支援コーディネーターの活動に関するご質問でございますが、学校支援コーディネーターは、学校と地域の橋渡し役となつてございまして、学校支援地域本部事業を

進めていく上で、重要な役割を担っていただいております。議員からは、こうしたコーディネーターが孤軍奮闘されているのではということもございましたが、大田区では本年1月に、これから学校支援地域本部を立ち上げる学校のコーディネーター予定者を対象とした研修とは別に、既に学校支援地域本部が設置され、そこでコーディネーターとして活動している方々を対象といたしまして、コーディネーターの皆さんが課題を共有して、その解決に向けてのヒントを得ることができるようなコーディネーター同士の情報交換もその研修の内容に含めた研修会を実施しているところでございます。

今後は、区民活動コーディネーター養成講座に限りませんで、必要に応じて他部局の関連する事業との連携も検討してまいります。私からは以上でございます。